

# 「宝島の古代をたずねて」

## 1 団体名

宝島社会教育学級と十島村立宝島小・中学校

## 2 人数

宝島社会教育学級 31名（うち教職員12名，児童生徒4名）

## 3 日時・場所

平成29年5月5日・鹿児島郡十島村宝島 「十島村高齢者交流センター」

## 4 活動に取り組んでいる史跡の名称・時代・特徴について

### （1）名称・時代

大池遺跡（おおいけいせき）：縄文時代

### （2）特徴

大池遺跡，浜坂貝塚

梅雨時期だけ水が溜まる大池で雨乞いの儀式が行われていたとされており，神聖な場所として現在も大切にしている。大池遺跡は縄文時代中期，約5500年前のものである。

周辺に貝塚があり，宇宿下層式から上層式にいたる土器や九州の轟式土器と関連がある土器が見ついている。近くの浜坂貝塚では，本土系の黒川式土器や夜臼式土器が出土し，先史時代からの南北交流の跡がうかがえる。

なお，宝島の集落では現在も，あらゆる所で中国明・清朝時代の陶磁器の破片が見ついており，当時の東アジアや東名アジアとの貿易圏において，重要な役割があったとも推察できる。

## 5 保存会や地域との連携の具体

宝島小・中学校では毎年，職員研修において，夏季休業中に島内の史跡巡りを行っている。職員の異動が多い本校では，恒例の活動である。本来なら，この活動において，「大池遺跡」の見学を計画するところであるが，今年のゴールデンウィーク期間前後に，鹿児島大学埋蔵文化財調査センターの新里貴之准教授を中心に，九州管内の大学関係者が，大池遺跡の発掘調査を大規模に実施するというこで，発掘現場の見学を宝島社会教育学級において企画した。

当日は，天候不良のため現地見学は実施できなかったが，地元の交流センターにて時間を変更して講座を実施した。観光で来島されていた方々の参加もあり，大池遺跡に関する説明や，今回の調査の発掘物の紹介や説明に多くの参加者が聞き入っていた。

質疑・応答も活発に行われ，充実した講座になった。

## 6 活用の取組の工夫した点

職員研修としての史跡巡りであったことから，今後，職員の教科指導での活用や，児童生徒の課題解決学習の指導において本取組の成果が発揮されると期待される。

## 7 取組の様子（講座の実際と現地）



## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### 【社会教育学級参加者】

- ・ 5,000年前のウミガメの頭の化石の大きさに驚いた。
- ・ 宝島の様々な深い歴史を知ることができてうれしかった。
- ・ 昔の日々との食生活が豊かであったということで少しほっとした。
- ・ 宝島に住んで3年目になるが、大池遺跡がこのような古い時代のものであることを知ることができてよかった。

### 【教員】

- ・ 古代の遺跡をはじめ、歴史の各時代の重要な遺跡や史跡が、宝島に現存することにますます研究を進めたい。
- ・ 今後の教科指導に生かせる教材が豊富であることに気づき、ますます調べたい。
- ・ 身近な地域のフィールドワークを児童生徒にも実施させたい。
- ・ 今宝島では見ることのないイノシシの化石が出てきたことで、奄美大島との関連を調べてみたい。